

総合タイトル「日本人の生活とキリスト教」

発行年月	回	テーマ	対談相手	肩書
1983年7月号	1	禅の勉強をされていた神父さまがなぜ、カトリックになったのですか	奥村一郎	カルメル会司祭
8月号	2	キリスト教の神秘主義と座禅の共通点 相違点は何ですか	奥村一郎	カルメル会司祭
9月号	3	病院は、ある意味で“学校”でもあり“教会”でもありますね	A・デーケン	イエズス会司祭
10月号	4	キリスト教とユング心理学と仏教をどう調和させますか？	玉谷直実	作家
11月号	5	患者と苦しみをわかちあえる看護を…	寺本松野	マリアの宣教者フランシスコ修道会
12月号	6	漂白の風の中に聖霊を感じている…	井上洋治	司祭
1984年1月号	7	キリストが自分の中で生きているかぎり……	八木誠一	神学者
2月号	8	いまの日本のキリスト教は、日本に対して怠慢ではないのか	松本正夫	哲学者
3月号	9	今まで全く知らなかったことの訪れこそが、福音ではないか	三雲夏生	倫理学者
4月号	10	戦後日本のキリスト教文学は真剣であったが	上総英郎・武田友寿	文芸評論家
5月号	11	日本のキリスト教文学は、まだ小学生である	上総英郎・高堂要	文芸評論家
6月号	12	個性による仕事と、無名の仕事	舟越保武	彫刻家
7月号	13	世界のひのき舞台上で歌いながら、日本人の音楽のことを考える	東 敦子	オペラ歌手
8月号	14	アルコール中毒は、社会の病気である	ジョン・ミニー	カトリック司祭
9月号	15	西洋の女、日本の女	越後佳代子・堤幸子	評伝作家（筆名「桐生操」）
10月号	16	カトリック学生はいま、なにを考えているのか	藤波 努	早稲田大学学生
11月号	17	キリスト教的自然観は日本人に受け入れられるか	高柳俊一	イエズス会司祭
12月号	18	水俣、深い洞察力をそなえた人々から得たもの…	宗像巖	上智大学教授
1985年1月号	19	あらゆるものから豊かに吸収して変わり続けよう	森下洋子	バレリーナ
2月号	20	訪問看護を中心とした新しい地域医療のすすめ	村松静子	看護師
3月号	21	バイオリン“武者修行”の中で自分の音を見出す	前橋汀子	バイオリニスト
4月号	22	精神、この深い深い淵をのぞく	加賀乙彦	小説家
5月号	23	人間らしさに満ちた医師であるために	内藤いずみ	医師

6月号	24	禅体験は、信仰を深めるか	門脇佳吉	イエズス会司祭
7月号	25	ジャズ・ダンスに人生が重なるのも精進しなきゃ結果がでないから…	名倉加代子	振り付け師
8月号	26	ユング的観点で聖書を見ることができるか	トマス・インモース	宗教哲学者
9月号	27	精神遅滞施設も普通の仕事とと思ってください	熊谷ことち	精神薄弱者更生施設指導員
10月号	28	新しいかたちでとらえられた神	井上章子	英文学者
11月号	29	臓器移植をおしすすめる条件は何か	藤村志保	俳優
12月号	30	今こそ人間関係のルネッサンスを	鈴木荘一	作家
1986年 1月号	31	波瀾万丈の暮らしの中からやっと見いだした真実	滝島憲一郎	大日産業社長
2月号	32	ハイポニカ（水気耕栽培）を通じて生命の本質を見直す	野澤重雄	協和化学工業社長
3月号	33	女に生まれて損したと思ったことはない	吉川加代	ソーシャルワーカー
4月号	34	宗教と科学とは調和するか	石川光男	理学博士
5月号	35	心の中に泡立つものを生かしたくて……	毬谷友子	俳優
6月号	36	人生における試練というものの意味について考えよう	川津祐介	俳優
7月号	37	花自身に花の歌を歌わせるということ	安達瞳子	華道家
8月号	38	現代日本に「一期一会」ということはありうるか	田中仙翁	茶人
9月号	39	このハイテク時代、なにか大きなものが欠けている	大坪直行	編集者
10月号	40	歳月は慈悲であるという思いを秘めて	倉富孝子	医師
11月号	41	「あなたならどうしますか」	熊井啓	映画監督
12月号	42	日本の土壤に強く根を張る信仰を育てるために	森一弘	司教
1987年 1月号	43	ボケーツとすることへのすすめ	稲盛和夫	京セラ社長
2月号	44	病気の原因はその人の人生の絡み 新しい総合医療の目指すもの	加登康洋	医師
3月号	45	この四年間に、あなたの勤務している病院は、どう変わりましたか	井部俊子	看護師
4月号	46	都会の美術史家の憂うつ	若桑みどり	美術史家
5月号	47	個人を超えて、時間を超えて共通の正解がずっと広がっている……。――ユングの「共時性」について	湯浅康雄	哲学者
6月号	48	彫刻家の父と、長女の人生	末盛千枝子	作家
7月号	49	女性キャスターの新しい挑戦	美里美寿々	ニュースキャスター

8月号	50	小学生たちの生活と想像力	岩田健	彫刻家
9月号	51	この大好きな透明感に抱きかかえられて……	木崎さと子	小説家
10月号	52	石の中の生命とその神秘	崎川範行	工業科学者
11月号	53	夜中に一人、釜メシを炊く男の「私だって人生のカンファタブルになりたい」	金田浩一呂	ジャーナリスト
12月号	54	ここまで来たか、女の自立論 タフに明るく孤軍奮闘	山口令子	ジャーナリスト
1988年 1月号	55	誰だっていつ入院することになるかわからないのだから……	藤原作弥	エッセイスト
2月号	56	キリスト教徒である私が仏教に興味をもつか	W.ジョンストン	イエズス会司祭
3月号	57	長崎、ネラン塾、スナック経営、「おバカさん」神父の二十数年	G.ネラン	司祭
4月号	58	競争千倍、7時のニュース、アナウンサーの人には言いたい表裏	畑恵	アナウンサー
5月号	59	引越を大企業に仕上げた女社長は仕事人間。度胸とアイデア、O123	寺田千代乃	アート引越センター創業者
6月号	60	異文化に出会った好奇心は興奮となり、やがて言葉を追い続けての悪戦苦闘	望月洋子	小説家
7月号	61	人妻といえば不倫、息子といえば反抗。作家とテレビ・プロデューサー、親子対談	遠藤龍之介	テレビプロデューサー
8月号	62	ミリオン・セラーの名人芸 暗く優しく、演歌の心で歌詞づくり	吉岡 治	作詞家
9月号	63	女の子たちの夢の教室「ウエディング・ケーキを手づくりで」	今田美奈子	洋菓子研究家
10月号	64	隅田川の花火を見上げて、「娘夫婦もよくやってるし、船も四艘、もう言うこともあるめえ…」	秋元きみよ	小松楼女将
11月号	65	龍角散、模型軍艦、ピアノにフルート、手品にCD、美女も仲間の中年探偵団「時間は自然にできてしまいます」	藤井康男	龍角散社長
12月号	66	すべてはグリュックリッヒ（幸福）だ。学びつつ生きてきたのも、あなたに会えたのも――。	楠田枝里子	科学エッセイスト
1989年 1月号	67	「俳句は自然をよむ詩です。人間の心に豊かな情感を与えてくれる…」	稲畑汀子	俳人
2月号	68	銀座のママがいまさら受験、酔うと本音の「学校へ行きたい！」――で、受かって晴れて二日酔い	麻那古宣子	銀座ママ
3月号	69	人間らしく穏やかに死にたい	広瀬勝世	医師
4月号	70	まじめ、不まじめ、背中合わせの意識と無意識、ユングを語り、魂の不思議を語り…	樋口和彦	宗教心理学者
5月号	71	息子二人が留年、退学。苦労や挫折はあたりまえと動ぜず親父が偉かったからのびのび人生、なんとも楽しい旅模様	古木謙三	グローバル・ユースピューロー社長

6月号	最終	しゃべりたいけれども黙り、人のために働くよりも謙虚に人の世話になり……。でもその最後に一番よい仕事。	矢代静一	脚本家
1990年 9月号	*	舞台に生きる女優の自然体（「特集・老いの豊かさをさぐる」での対談）	杉村春子	俳優